

N.K 司法修習生

慶応義塾大学大学院 法務研究科卒

私の学生生活は、司法試験合格を目標に、日々学習に打ち込んだ期間でした。

学部在学中は、周囲に学習仲間が少なく、独学での学習に不安を覚えることもありましたが、疑問をそのままにせず、教科書や判例を繰り返し読み込み、理解を深める努力を続けました。大学院進学後は、志を同じくする仲間と自主ゼミを立ち上げ、判例や論文の検討、模擬起案の相互添削を通じて、理論の精度を高めることができました。予備校に頼らず、講義・教科書・過去問を中心に学習を進める中で、粘り強く課題に向き合う姿勢と、自律的に学ぶ力が身についたと感じております。

そのような日々の積み重ねの結果、司法試験に合格し、現在は司法修習生として実務の研鑽に励んでおります。修習を通じて生の事件に触れる中で、これまで理論として学んできた法が、実際の社会や人々の生活と密接に結びついていることを強く実感いたしました。特に民事事件に携わる中で、法を適用するうえでは厳正さだけでなく、人への理解や共感の視点も欠かせないことを痛感いたしました。

現在は検察官を志望しており、社会正義の実現に貢献したいと考えております。法の厳格な運用を通じて公正を保ちつつ、事件の背後にある人間的・社会的要素にも目を向け、再犯防止と更生支援の両立を目指すことができる法曹を理想としています。学生時代に培った探究心と誠実さを糧に、法の理念と人間への理解を両立させられる法曹を目指して、今後も研鑽を積んでまいります。